

KRC WEB REPORT

徒然想

紅葉の季節から、次第に冬の景色へと変わろうとしています。水色に晴れた秋空を背に、赤や黄色のグラデーションを見せてくれる街路樹はハッとするほど綺麗でした。路上に落ちた枯葉を見ながら、ベストセラーになった絵本「葉っぱのフレディ」を思い出す方もいらっしゃるかもしれません。「いつかは死ぬさ。でも“いのち”は永遠に生きているのだよ。」というセリフが印象的な物語です。先日、震災復興を応援する小さな集会に参加してきました。被災地の子供がこの絵本を手に入れている写真を見たとき胸に突き刺さった棘は、まだまだ抜けそうにありません。

TECHNICAL TOPICS 今月の技術情報

清水谷製錬所 AR 作成

世界遺産石見銀山遺跡の中でも最大規模を誇る清水谷製錬所の模型を用いた AR を紹介します。清水谷製錬所は、明治・大正期の合名会社藤田組が明治 28 年 4 月に操業を開始した、近代的な銀の製錬所跡です。現在は建物が建っていた石垣が残るだけとなっていますが、当時は、機械選鉱場、焙煎室など 10 棟以上の建物が建ち並んでいました(図 1)。弊社では平成 20 年に 3D レーザで地形や石垣の計測を行い、また当時の古写真をもとにそれらの建物の位置や規模を推定し、遺跡全体を 3DCG により復元しました。その概要を紹介する「ビデオ」は世界遺産センターで放映されています。このたび同センターは企画展『台湾 金瓜石・瑞芳鉱山と黄金博物館』を 11 月 26 日まで開催しています。この企画展では、石見銀山と台湾北端部に位置する瑞芳(ずいほう)金瓜石(きんかせき)鉱山の知られざる絆について光をあてるとともに、鉱山遺跡の現代的活用と課題について展示がなされています。そのうち弊社では 3D プリンターで清水谷製錬所の地形模型を製作し、またこの模型を用いた AR コンテンツ制作を行いました(図 2)。AR (Augmented Realityー拡張現実)は、実際には存在しない 3DCG を現実空間の上に重畳表示する最新の技術です。この地形模型に iPad をかざすと古写真をもとに作成した建物の 3DCG があらゆる角度から表示されます。操業時、正に煙突から煙を吐き出し盛況であった様子をご覧ください(図 3、4)。機会がありましたら、ぜひ石見銀山世界遺産センターへ足をお運び下さい。

なおこの AR は常設展示される予定です。



図 1 清水谷精錬所(古写真)



図 2 企画展「台湾 金瓜石・瑞芳鉱山と黄金博物館」での AR 鑑賞の様子

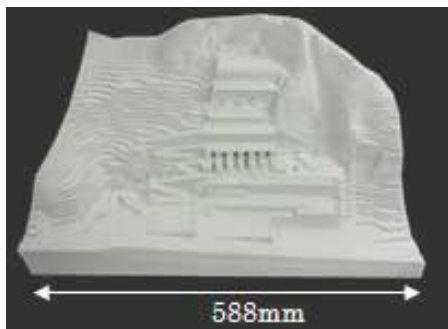


図 3 3D 出力された模型
(縮尺: 1/250)



図 4 模型の上に出当時の建物が建ち並んでいる状況を AR で表示

詳しくはこちらの HP もご覧ください。 <http://www.krcnet.co.jp/works/works076.html>

(株)計測リサーチコンサルタントへのお問い合わせ先: krc@krcnet.co.jp HP: <http://www.krcnet.co.jp/contact/contact.htm>